

## ①最優秀賞 環境循環型農業を実践し、育てる人、作る人、食べる人の顔が見える関係を目指す

【概要】 農業生産法人を組織し、有機栽培・特別栽培など環境循環型の栽培方法にこだわり、自社で生産した原料を用いて昔ながらの方法で味噌・醤油・豆腐・漬物を製造し、既存品を活かしたアップサイクル商品の商品開発、そして製造の過程で発生する副産物を有効活用して廃棄0を達成。

自社にて太陽光発電からエネルギーを作り、工場稼働などに使用している。また地元の生協組織と大豆トラスト運動やNPO法人と共に水を育む森林保全活動の活動などを行っている。

(実施主体：ヤマキ醸造株式会社 場所：埼玉県)



## ②優秀賞 「終わらない服をつくろう。」お客様と共に歩むグッドライフなエコ活動

【概要】 大量生産大量廃棄への対応として、1998年から始まった不要衣類の回収と資源循環の取り組みを進化させ「WEARSHiFT」BOXを全国の店舗に設置し、お客様と共に歩むエコ活動を推進すると共に、服から服へ、循環型リサイクルにもチャレンジしている。

また、回収衣類の一部を用いてリサイクル防災毛布を作製し大規模災害に見舞われた自治体へ寄贈、衣料の回収量に応じた森林保全活動への寄付を通して「AOYAMAの森」づくりに取り組んでいる。

(実施主体：青山商事株式会社 場所：全国)



## ③優秀賞 びっくりドンキーの生きものにも優しいお米～契約産地での生きもの調査実施率100%！～

【概要】 ハンバーグレストラン「びっくりドンキー」で提供するお米は全量契約栽培を行い、農薬使用は除草剤1回以下で畔を含め殺虫剤の使用は禁止という独自の厳しい基準に加え、生産者ご自身の田んぼの「生きもの調査」を義務化。

この調査を通して、カエルやトンボなどの水生の幼生が成体になるのを待つための水田の中干し延期や落差の大きな排水路と水田をつなぐ魚道設置などの生物多様性へ配慮した取り組みを契約産地で推進している。

(実施主体：株式会社アレフ 場所：全国)



## ④優秀賞 里山再生「我田の森」プロジェクト

【概要】 里山の荒廃した環境を守るため、2000年4月「里山クラブ可児」が発足。2002年4月「我田の森(面積約13ヘクタール)」を拠点として活動している。

当時の我田の森は、久々利我田集落13名の共有財産区と個人地権者が混在した土地となっており、手入れが行き届いていなかったこの地を里山保全活動地として、地権者等と協定を締結した。以降、里山再生、整備・保全活動を楽しみながら、着実に進んでいる。

(実施主体：里山クラブ可児 場所：岐阜県可児市久々利地区)



## ⑤企業部門 「もったいない」を事業へ

【概要】 インクジェットプリンターの使用済みインクカートリッジは廃棄するのが当たり前となっていた。再利用する方法がなかったため、毎年約2億個もの使用済みカートリッジがゴミとして捨てられていた。この廃棄される膨大なカートリッジに資源としての可能性を見出し、日本初の「使用済みインクカートリッジを回収し再利用する」仕組みを確立した。

（実施主体：株式会社エコリカ 場所：全国）



## ⑥企業部門 伝統林業の再興と備長炭で持続可能な里山を創る

【概要】 徳島県南部に江戸時代から伝わる伝統の循環型広葉樹林業「樵木林業（こりきりんぎょう）」を現代版に再興し、放置により荒廃が進んだ里山照葉樹林の再生・保全を進めつつ、国内外で高価取引される備長炭産業を興すことで、“持続可能な里山”と“食べる里山産業”を同時実現する取り組み。

SDGs未来都市徳島県美波町のSDGs計画の中核を担うなど、公民連携で里山と地域を未来に繋げる取り組み。

（実施主体：株式会社四国の右下木の会社 場所：徳島県美波町）



## ⑦学校部門 大学生のチカラで地域を元気に！再生可能エネルギーの活用からつなげるローカルイノベーション

【概要】 龍谷大学政策学部洲本プロジェクトでは、毎年20名以上の大学生が淡路島の洲本市に通い続けている。地域の人や地元企業、市役所の皆さんと連携しながら、11年間にわたって活動してきた。

市内1ヶ所に小水力発電システムの構築、2ヶ所にフロートソーラー発電所を設置し、地域貢献型再生可能エネルギー事業を推進してきた。その売電利益は、地域課題の解決に資する活動の費用として充填されている。

（実施主体：龍谷大学政策学部洲本プロジェクト 場所：兵庫県洲本市）



## ⑧NPO部門 人も自然としてある未来へ～「SATOYAMAオーガニック地域」の創造～

【概要】 奈良の北東部の大和高原で地域の方々より茶園を受け継ぎ、約30か所11haの茶畑を自然の調和を大切に経営し24年目を迎える。

持続可能な農業に加え多面的にSDG s な社会課題にアプローチしている。子どもたちへ五感体験、オーガニックコスメづくり、肥料や農薬不使用+バイオマス、茶園の生態系の維持、持続可能なお茶旅、茶文化の発信、中山間地域での生きがいつくり、SATOYAMA地域における自立分散型里山地域づくりをサポート等を行っている。

（実施主体：健一自然農園 場所：福住村を中心とした大和高原一帯）



## ⑨自治体部門 まめで達者な村づくり

【概要】 平成16年から「まめで達者な村づくり」として、高齢者の健康づくりによる医療・介護サービスの削減や遊休農地解消のため、大豆の栽培を奨励し村が全量買い取りを実施。

生産量はここ数年微増傾向にある。また、平成20年からは「まめで達者な村づくり」に加え、「バイオマスヴィレッジ構想」を立ち上げ、畜産農家から産廃として排出されていた牛糞を活用した完熟有機たい肥を生産。さらに間伐材から薪を生産するなど村独自のエコシステムを導入。

（実施主体：鮫川村 場所：福島県 鮫川村）



## ⑩地域コミュニティ部門 「森と暮らす」山採りの木がつなぐ森と人が共生する豊かな地域未来をめざして

【概要】 地域の森に自生する広葉樹「山採りの木」を地域の暮らしの中に移植することで、森の保全と地域資源の循環利用の取組を行っている。

地域住民から関心の低い地域の森から山採りの木自体の高い価値を見出し、そこから森と庭、そして地域全体の経済に新たな価値を生み出す為の様々な活動を推し進めている。庭づくりから得た収益を森の整備や様々な森に関する活動に再投資することで、この取組を無理のない持続可能な仕組みへと実現化している。

（実施主体：フォレストニア 場所：愛知県瀬戸市）

